

# 研究報告書

1. 外国人招聘研究者氏名(職名・所属・国名)

Dr. Tristram Wyatt

(Senior Research Associate, Department of Zoology, University of Oxford, UK)

2. 研究テーマ

Pheromones and animal behavior フェロモンと動物行動

3. 招聘期間

平成 28 年 2 月 29 日~平成 28 年 3 月 20 日

4. 研究討議・研究協力等実施の状況とその成果

匂いの感覚である嗅覚でノーベル賞が 2004 年に出て以来、五感に関する研究で残された大きな領域は味覚研究とフェロモン研究である。特にフェロモンは、生命科学の根幹となる交尾現象を支配するものであると同時に、害虫などの環境問題とも密接につながりのある社会的にも重要なターゲットである。Wyatt 博士は、世界のフェロモン研究をひっぱってきただけでなく、フェロモン界ではバイブル的な本である **Pheromones and Animal Behavior 2<sup>nd</sup> Edition (2014, Cambridge University Press)** を執筆するなど、本領域の生き字引的な存在であるだけでなく、領域の活性化に長年関わってきた研究者である。

2 月 29 日に来日して、3 月 1 日-3 日までは東原研にてラボメンバー全員とディスカッションをした。3 月 3 日には、2 日に行われたセミナーに加えて、フェロモン物質の定義についてのセミナーを飛び入りでやっていただいた。その後、5 のセミナー日程にあるとおり、東京大学神崎研、広島大学大村研、神戸大学尾崎研、京都大学松浦研、岩手大学宮崎研にてセミナーをした。それぞれの場所以て有意義なディスカッションと情報交換ができたという報告を受けている。詳細は Fellow の報告書の **B.Outline of activities** に記載されている。

5. 招聘研究者の滞在中のセミナー日程

日付	大学名	ホスト	タイトル
平成 28 年 3 月 2 日	東京大学	東原和成 武内ゆかり	Success of the smelliest
平成 28 年 3 月 3 日	東京大学	東原和成	Pheromones & signatures
平成 28 年 3 月 4 日	東京大学	神崎亮平	Success of the smelliest
平成 28 年 3 月 7 日	広島大学	大村尚	Success of the smelliest

平成 28 年 3 月 8 日	神戸大学	尾崎まみこ	Success of the smelliest
平成 28 年 3 月 11 日	京都大学	松浦健二	Success of the smelliest
平成 28 年 3 月 14 日	岩手大学	宮崎雅雄	Success of the smelliest

## 6. まとめ

Wyatt 博士を日本に招聘することによって、日本におけるフェロモン研究者に刺激が与えられたと同時に、世界的に見て今後どのようにフェロモン研究を進めて社会に貢献しうる成果をだしていくかを議論する大変良い機会になった。線虫、昆虫、魚、マウス、ヤギ、シロアリ、蟻、ネコなど様々な動物のフェロモン研究者と討議および意見交換を行うことによって、日本における本学術分野の活性化が実現した。

## 7. セミナーの風景の写真



東京大学でのセミナー風景（3月3日）



広島大学でのセミナー風景（3月7日）